介護Biz

在宅生活支える訪問栄養指導

利用に応じて柔軟に対応

同胞互助会【後編】

栄養管理で地域を支える

同胞互助会の訪問栄養指導は、愛全診療所の管理栄養士による居宅療養管理指導の形を取る。利用者は要支援1～要介護2の比率が高い。昭島市から受託した「食の自立支援事業」で行った食事調査が取り組みへの端緒という経緯もあり、ある程度早期介入できていることの表れといえるかもしれないが、「もっと早く介入できていればというケースもありますし、もっと独居で必要とされている方もいるかもしれません」と管理栄養士の佐藤悦子さんは言う。

対応の仕方はケースに応じて様々。例えば、脳血管性パーキンソン症候群で摂食嚥下障害が著しく経鼻栄養だった70代男性。昼だけでも口から食べたいとの希望もあり、医師の指示で経口移行訓練をすることに。歯科医のVEも踏まえて食形態を決め、佐藤さんは嚥下訓練食の献立を提案し、家族に作り方を指導。食事介助での1スプーンの量や交互嚥下なども説明した。歯科衛生士は口腔ケア、STは言語訓練、食事姿勢のチェック。その結果、濃縮野菜スープなどから始めた食事はペースト食、ソフト食へ。「意欲が強くなったのか、日誌を付け始めたのにはびっくりしました」と佐藤さん。

◀楽しみの提供と体によい料理作りが主眼の「リハクッキング」写真提供：同胞互助会

料理指導が必要な場合は、なるべく手間がかからず、楽しめる料理を工夫する。「例えば腎障害で蛋白質やカリウム摂取量調整などを目的に低蛋白ご飯を使う場合なら、すしの酢飯、五目ご飯や炊き込みご飯にしたりもします」と管理栄養士の川戸由美さん。

日常食べているものに材料を足したり、置き換えたりの工夫をするケースもある。例えば糖尿病、腎機能低下などで糖分、塩分の適量化が必要なケースでは、好物のラーメンを減塩のものにして麺と汁だけだったところに野菜を入れ、ジュース類だった水分補給をお茶に、といった具合だ。

生活の場での食の実際、本音の食嗜好などを引き出せるのが訪問栄養指導ならでは、という。

こうした取り組みに加え、法人では訪問栄養指導志望の管理栄養士に対する同行訪問や、所属管理栄養士らが地域で発足させた「昭島NST」を通じた食支援の多職種連携作りなどにも取り組んでいる。

有床診療所を併設 医療的ケアに強み

医療法人容生会が運営する介護付有料老人ホーム「ようせいメディカルヴィラ」（東京都足立区・定員60名）は、医療法人が運営していることに加え、有床（19床）診療所を併設していることが大きな特徴だ。三浦淳施設長に話を聞いた。

ようせいメディカルヴィラ
三浦淳施設長

医療法人容生会

――医療法人が運営することでホームにどのような特徴があるか。

三浦　幅広い疾患や医療依存度の高い人の受入れが可能となっています。例えば、余命宣告を受けたガン患者、心疾患、脳卒中、ALSなどの難病、パーキンソン病、呼吸器疾患、認知症、経管栄養など様々な人たちの受入れ実績が多数あります。

◀在宅診療部から居室への往診の様子

――併設の有床診療所の医師は1名なのに、幅広い疾患に対応できる要因は。

三浦　容生会グループには、在宅医療部（往診）があります。現在、700名の患者を、41名の医師で診ています。医師のほとんどは、大学病院から派遣されてきた特定の疾患に詳しい専門医で、ヴィラ入居者の疾患に応じて往診します。どのような疾患にも対応できるようになっており、容生会グループの診療科目にないのは、産・婦人科だけです。

◀有床診療所内の様子

――有床診療所との併設のメリットは。

三浦　診療所には医師、看護師が24時間365日常駐しているので、入居者の容態が急変した場合の対応が速いことが大きな特徴です。居室にすぐに駆けつけてくれますし、真夜中に入院するということも可能です。対応が速いと、その後の症状改善の度合いも大きく違ってきます。夜間嘔吐などによる誤嚥が発生した時も介護職員から看護師、医師に報告することにより、より速い医療処置を施すことができます。また、ガン末期の入居者も多いですが、有床診療所と併設しているので症状緩和処置も極力対応しています。

――そうした体制なので、医療重度の入居者が多いのですね。

三浦　昨年の退居者36名のうち、自宅からの入居は1名だけで、35名は病院からです。有床診療所が1階にあるため、2階から4階にある施設は、病院の延長と思って、ここを選ぶ家族が多いです。

――入居を希望する家族は、どういう経路で来るのか。

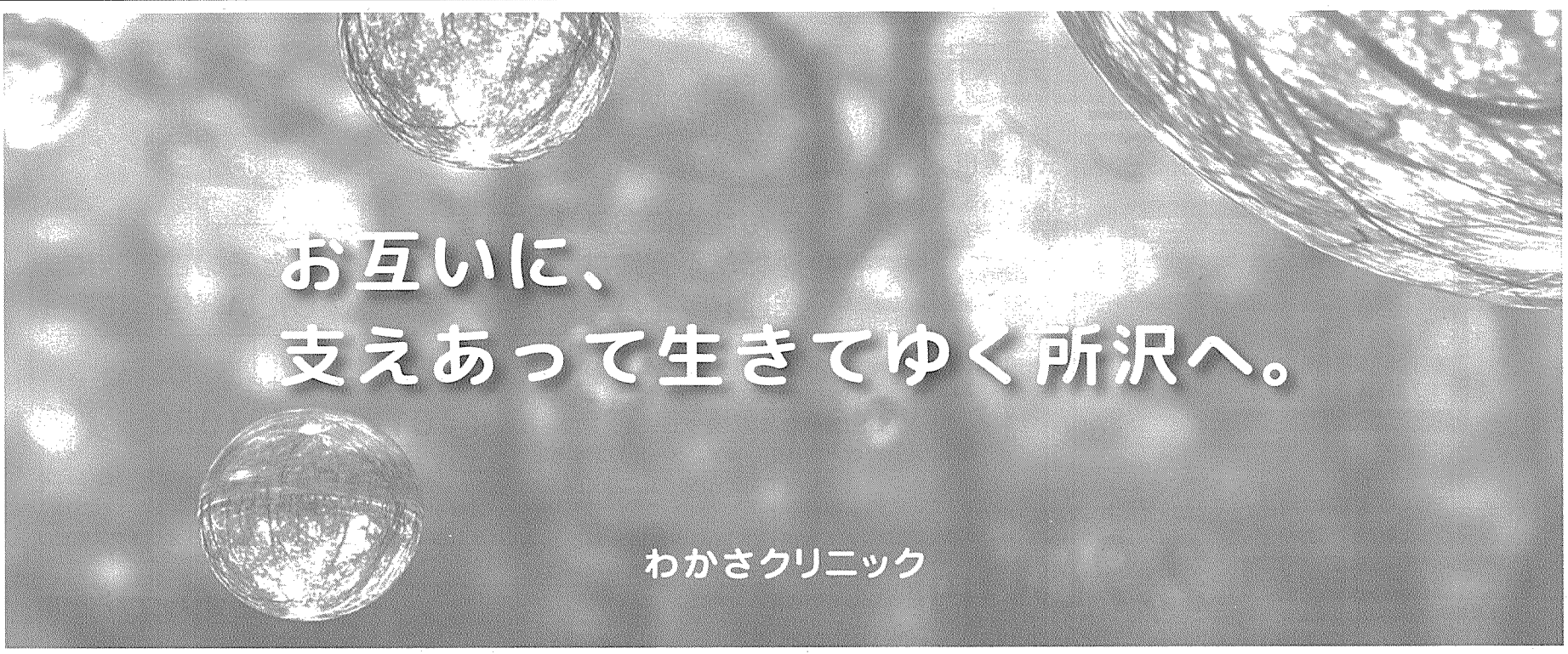
三浦　病院のソーシャルワーカーからの紹介が一番多くなっています。でも、最近の家族は、紹介されても自分の目と耳できちんと確認してからここに決める人が多いです。大学病院から派遣されて来ている医師がソーシャルワーカーを介して当施設を紹介してくれることも多々あり、これも当施設の強みだと思います。入居者のうち病院からの紹介は5割、容生会グループの利用者・患者2割、紹介会社2割、ホームページ等からの直接申し込みが1割となっています。

介護ロボットをマッチング

ウェブ全面刷新

ウェルクス

ウェルクス（東京都台東区）は、運営する「介護ロボットONLINE」をフルリニューアルし、介護施設運営者と介護ロボットメーカーを繋げるマッチングサイトとして再オープンさせた。

同サイトはこれまで、製品情報や関連ニュース、補助金情報などを提供する情報サイトだった。今回のリニューアルで介護事業者からロボットメーカーへの資料請求や試用依頼、営業担当者へのコンタクトなどができるサイトになった。

ウェルクスによると、介護ロボが導入されている現場は全体の5・8％にとどまる。介護ロボ購入の課題として、介護事業者側からは「製品の比較検討ができない」、メーカー側からは「モニター調査に協力してくれる事業者が見つからない」などの声が挙がっていた。今回のリニューアルで、これらの課題が解消されることを狙う。